

国立病院機構熊本医療センター

2015 No.211



くまびょうNEWS

NHO KUMAMOTO MEDICAL CENTER KUMABYO NEWS

発行所
国立病院機構熊本医療センター
〒860-0008
熊本市中央区二の丸1番5号
TEL (096) 353-6501(代)
FAX (096) 325-2519



新年の御挨拶

国立病院機構熊本医療センター

院長 河野 文夫

明けましておめでとうございます。旧年中は、多方面にわたりご指導、ご支援を賜りまして誠に有難うございました。職員一同厚く御礼申し上げます。

世間では、アベノミクスで日本経済は今後よくなるのか悪くなるのか予断を許さない状況が続いています。一方、国際的には、隣国の韓国、中国との関係に好転の兆しがやっと見えてきました。今年こそ国際関係の改善を期待したいと思います。

また、本年は、地域医療構想（ビジョン）の策定が4月よりスタートし、二次医療圏における、地域の医療提供体制の将来目指すべき姿が示されます。このための「協議の場」が設置される予定です。医療機関が過剰な場合、最終的には熊本県が、稼働していない病床の削減を命令（公的医療機関）または要請（民間医療機関）することになっています。このような厳しい状況の中、少しでもいい年になりますように職員一同努力したいと思います。

当院では、昨年、念願でありました病院機能評価の認定を受けました。そしてこれに続く病院の質を継続して向上させるためにQC活動（Quality Control：品質管理）を開始しました。本年は、その成果を是非ともあげたいと思います。

また、病床機能につきましても、当院は、病院全体で高度急性期医療の7対1看護病床で報告しております。その基準の中で、最も高いハードルが、在宅復帰率75%でございましたが、10月頃から80%を超えるようになり、後方病院などの皆様のご理解とご協力のおかげと感謝申し上げます。

当院の方針は、今までと変わることなく、急性期医療に全力を挙げまして、365日、24時間どんな患者さんでも救急医療を断らないをモットーとし、地域医療連携の一翼を担い、地域の先生方のお役に立ちたいと思っております。

幸い、昨年10月31日に厚労省が報告しました3次救命救急センターの評価では、全国で7位、九州では3年連続1位でした。また、救急車の搬送台数では、年間9,256台で全国10位、重篤患者人数では全国4位でした。このような成績を出せましたのも患者さんをご紹介します先生方のおかげと心より感謝申し上げます。

今後予想される急性期病床機能の明確化、在宅医療の推進などをふまえて、急性期の病院として救急医療で一層お役に立てるように努力したいと思います。

本年度が、先生方にとりまして実り多い1年となりますことをご祈念申し上げますとともに、本年度もどうぞよろしくご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2015年元旦

基本理念

最新の知識・医療技術と礼節をもって、
良質で安全な医療を目指します。

運営方針

1. 良質で安全な医療の提供
2. 政策医療の推進
3. 医療連携と救急医療の推進
4. 教育・研修・臨床研究の推進
5. 国際医療協力の推進
6. 健全経営

患者様の権利

1. 良質かつ適切な医療を公平にうける権利があります
2. ご自身の医療について理解しやすい言葉と方法で十分な説明と情報を受ける権利があります
3. 病院から説明と情報を得た上で、自らの意志で治療を受け、あるいは選択し、拒否する権利があります
4. 自分の診療記録の開示を求める権利があります
5. セカンド・オピニオンを求める権利があります
6. 個人としての人格の尊重とプライバシーの保護を受ける権利があります



「病診・病病連携について」

浦田医院

院長 浦田 誓夫



新年明けましておめでとうございます。

当院は玉名市の16床の有床診療所です。私は内科
また家内の章子は小児科医として、義父と義母の後
を継いで20年を過ぎました。この間国立熊本医療セ

ンターには国立熊本病院の頃よりいろいろな患者さん
を心よかつ迅速に引き受けていただき、また丁寧な御報告を
いただき感謝しております。私どもも同様ですが、患者さん
も診療の予定がすぐにわかり、また各科が待機しており種
々の疾病を合併する場合でも全身を診てもらえる安心感
を感じています。

本年は有床診も含めた病床機能報告に基づく地域医療
ビジョンが開始され病床の更なる再編制がすすみ、病診
連携のみならず病病連携もさらに強化が必要と思われ
ます。

当院のある玉名郡市には医師会立の玉名地域保健医療
センターと公立玉名中央病院が主力の病院としてあり、医
療の地域包括の一環として両病院を介しての連携もよろ
しくお願いいたします。

私どもも医師になって40年立ち、この間医学・医療は
各分野で進歩してきたとは思っておりますが、まだ限界を
痛切に感じる日々が折にふれあります。疾病の克服やよ
り良い管理をめざし、医療・医学がさらに進歩し普及し
ていくことを念じております。

最後に本年も皆様にとってよい一年になりますよう
心からお祈りいたします。

平成26年度第2回開放型病院運営協議会が開催されました

第2回開放型病院連絡会は、27年2月21日（土）に決定しました！

12月1日（月）、当院会議室にて国立病院機構熊本医療
センター開放型病院運営協議会が開催されました。協
議会には、外部委員である熊本市医師会長の福島敬祐
先生（当協議会委員長）、同医師会副会長の園田寛先
生、同医師会理事の家村昭日朗先生にご出席いただき
ました。河野院長の開会挨拶、福島委員長のご挨拶に
続き議事に入りました。議事では、事務局より地区別
登録医数、開放型病院共同指導実績、くまびょう新
スの発行状況についての報告がありました。続いて開放
型病院連絡会の開催について協議が行われました。そ
の結果、平成26年度第2回開放型病院連絡会を、平
成27年2月21日（土）午後6時30分より、当院の
地域医療研修センターにて開催することを決定し、協
議会は閉会となりました。

2月21日の開放型病院連絡会では、2題の症例提示
を予定しています。また、地域連携室と紹介予約セン
ターからのお知らせの後、厚生労働省医政局総務課保
健医療技術調整官 町田宗仁先生による特別講演を予
定しております。この連絡会を機会に地域の医療機関
の皆さまと益々の連携強化を図りたいと考えています。
医師、メディカルスタッフ、看護師、MSW、事務など
多数の方々のご参加をどうぞお願いします。

（管理課長 清水就人）



福島敬祐熊本市医師会長のご挨拶の様子

第38回 開放型病院連絡会のご案内

日時：平成27年2月21日（土）午後6時30分
場所：地域医療研修センターホール（当院2F）

－ 内 容 －

- 1 症例提示
- 2 地域医療連携室からのお知らせ
- 3 紹介予約センターからのお知らせ
- 4 特別講演
厚生労働省医政局総務課保健医療技術調整官
町田 宗仁 先生

【参加申込み先】

国立病院機構熊本医療センター管理課
電話 096-353-6501 内線2311（清水・富田）

病棟紹介

6 東病棟



6 東病棟スタッフ

6階東病棟は、消化器外科・肝臓外科・乳腺外科と外科全般の疾患を取り扱います。主に手術療法、化学療法、放射線療法の患者さまを受け入れており、手術後の患者さまは、4床の観察室で集中して観察を行っています。19床の有料個室では、手術後や化学療法中でも、ゆっくり過ごしていただけるよう療養環境の提供を行っています。乳腺外科や人工肛門造設患者様のケアでは、ボディイメージの変化による受け入れや処置など、皮膚排泄ケア認定看護師と協力し看護ケアを行っています。また、疾患の理解や看護についてなど、病棟勉強会を1～2回/月開催しており、外科医師にも講師として参加いただき、知識と技術の向上に努めています。

毎週月・木曜日は緩和チームによるラウンド、毎週金曜日には緩和カンファレンスを行い、より患者のニーズに合わせた看護ケアができるように心掛けています。

今年度より、がん性疼痛看護認定看護師が在籍し、術後の疼痛や終末期患者さまの疼痛コントロール等を行い、早期離床や在宅医療への移行ができるように頑張っています。
(6 東病棟師長 福本佐百合)

4床の観察室



病棟カンファレンス



看護カンファレンス

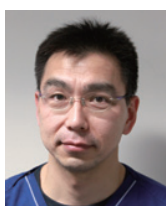


病棟勉強会





部長 教育研修部長
大塚 忠弘 (おおつか ただひろ)
血管障害、頭部外傷、脳腫瘍
日本脳神経外科学会専門医・指導医

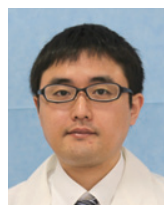


医長
吉里 公夫 (よしざと きみお)
脳血管障害、頭部外傷、脳腫瘍
日本脳神経外科学会専門医・指導医
日本脳卒中学会専門医

診療内容と特色

脳神経外科は平成6年に開設され、平成9年には日本脳神経外科学会専門医教育認定施設となり、研修指導を行っております。平成17年度からは日本脳卒中学会専門医認定教育施設に認定され、脳卒中診療に更に力を注いでおります。

平成21年4月には、脳神経外科手術用の最新式顕微鏡（三鷹光器社製MM80）が導入され、また、同年10月の病院新築に伴い専用の手術室も整備されました。顕微鏡手術の快適性・高機能性が担保され、手術成績の向上に繋がるよう益々努力して参ります。また、新しく術中のICG蛍光血管撮影装置（三鷹光器社製F-light 300）や術中の誘発筋電図（MEP、日本光電）も整備されましたので、顕微鏡手術の安全性・確実性は更に向上するものと思います。現在スタッフは3名ですが、豊富な入院患者数および手術実績を背景に、満足のいく治療成績を提供できるものと思っております。一方、手術症例に限られる昨今、若い医師にとってマイクロサージェリーに対する訓練は大変重要となってきました。当科では、微小血管吻合用の手術顕微鏡、機器および内視鏡手術訓練模型を整備しており、トレーニング環境も充実しております。



医師
甲斐 恵太郎 (かい けいたろう)
脳血管障害、頭部外傷、脳腫瘍

診療実績

病棟は、常時約20人が入院し、平成25年度の入院患者は508人でした。

入院患者の内訳は

脳血管障害……………254人
頭部外傷……………211人
脳腫瘍……………11人

手術数は215件で、主な疾患では、

脳動脈瘤手術……………37件
開頭血腫除去術……………32件
慢性硬膜下血腫除去術………90件
水頭症手術……………14件
定位的脳内血腫除去術………9件
脳腫瘍……………6件
内頸動脈内膜剥離術……………3件

くも膜下出血（脳動脈瘤破裂）については、急性期の直達手術を優先し、重症意識障害患者についても外減圧術等を併用して積極的に手術対応します。内頸動脈内膜剥離術については、県下で唯一全例内シャント使用下で手術を行い、血行遮断時の脳虚血の予防に努めています。

ご案内

- 急性硬膜下血腫と吸収機転、手術法等に関する研究
- 脳動脈瘤手術法に関する研究
- 慢性硬膜下血腫に再発に関する研究
- 無症候性微小脳出血（microbleeds）に関する研究：国立病院機構政策医療ネットワーク循環器疾患共同研究（平成17-19年度、主任）、国立病院機構EBM推進のための大規模臨床研究（平成20-23年度、主任）

ご案内

頭部CTやMRI所見については、電話やメール（画像添付）などご遠慮なくご相談下さい。

平成26年度地域医療支援病院運営委員会が開催されました

平成26年度の国立病院機構熊本医療センター地域医療支援病院運営委員会が平成26年11月18日（火）16時より当センター会議室にて開催されました。協議会には委員長の熊本市医師会会長 福島敬祐先生をはじめ、熊本市歯科医師会会長 宮本格尚先生、熊本市薬剤師会会長 村瀬元治先生、熊本県健康福祉部健康局長 山内信吾様、熊本市保健所長 大塚博史様の方々にご出席いただきました。

河野院長、福島委員長のご挨拶の後、事務局より、①紹介率・逆紹介率の実績、②共同指導の実績、③救急医療の提供実績、④地域の医療従事者の資質向上を図るための研修実績などについて報告がありました。

地域医療支援病院として承認を受け、12年目を迎えました。これも一重に開放型病院登録医の先生方をは



地域医療支援病院運営委員会の様子

じめ、当院を信頼して患者様をご紹介して下さる先生方のおかげと深く感謝申し上げます。今後ともご指導の程よろしくお願い致します。

（副院長 高橋 毅）

平成26年度 第2回 熊本市歯科医師会・国立病院機構熊本医療センター連絡協議会報告

平成26年度第2回熊本市歯科医師会・国立病院機構熊本医療センター連絡協議会が12月8日（月）午後7時より、当センター会議室で開催されました。熊本市歯科医師会からは宮本格尚会長、田中弥興副会長、高松尚史専務理事、有働秀一医療管理理事、高橋禎医療管理委員長に出席いただき、当院より河野院長、片渕副院長、清川総括診療部長、原田救命救急科医長、中島歯科口腔外科部長が出席しました。

河野院長、宮本会長からの挨拶の後、議事に入りました。まず当院の歯科紹介率の議題では中島部長から、紹介率（47.6%）、紹介数ともにこれまででも多く推移していると報告されました。



次いで、当院の歯科救急医療についての議題では、原田医長より今年はずでに11月までで190件と例年以上に多く、交通事故による顔面外傷が多かったことが示されました。

続いて歯科関係の今年度に行われる講演会の紹介と来年度も医歯連携セミナー3回、熊本摂食・嚥下リハビリテーションセミナーが6回と講演会1回、開催する予定であることが報告されました。

最後に片渕副院長から、平成26年度第2回国立病院機構熊本医療センター開放型病院連絡会が2月21日（土）午後6時30分から、当院地域医療研修センターにて開催されることが案内されました。その他、当院での予約システムの変更点と来年から開始する入院支援室の話題があり、今後のさらなる連携を確認して閉会となりました。

（歯科口腔外科部長 中島 健）



熊本市歯科医師会・国立病院機構熊本医療センター連絡協議会の様子

第20回 国立病院機構熊本医療センター医学部プログラム

平成27年 1月17日 (土)

開会の辞

8:50~9:00

一般演題 I 「内科系部門」

9:00~10:15

I-1 HbA1c高値を指摘され、異常ヘモグロビン症と診断された正常耐糖能の一例

糖尿病・内分泌内科 小野恵子 堀尾香織 坂本和香奈 橋本章子 豊永哲至

I-2 分割食導入に至ったGDM入院患者の食事摂取状況について

栄養管理室¹ 糖尿病・内分泌内科² 大野仁美¹ 山田奈津美¹ 池田かおり¹ 米倉貴子¹ 堀尾香織²
坂本和香奈² 橋本章子² 小野恵子² 豊永哲至² 松永直子¹

I-3 腹膜透析中に鼠径ヘルニアと陰嚢水腫を合併し、鼠径ヘルニア根治術後に腹膜透析を再開し得た一例

腎臓内科 山田敏寛 坂梨 綾 三浦 玲 梶原健吾 富田正郎

I-4 赤白血病として再発した急性巨核芽球性白血病の一例

血液内科¹ 七城木村クリニック² 山口俊一朗¹ 河北敏郎¹ 原田奈穂子¹ 日高道弘¹ 木村圭志²

I-5 ステロイド抵抗性移植後ITPに対しエルトロンボパグが著効した一例

血液内科 吉田麻美 井上佳子 山口俊一朗 河北敏郎 榮 達智

I-6 原発性シェーグレン症候群患者に発生した肝原発MALTリンパ腫の1例

消化器内科¹ 病理診断科² 伊津野友紀¹ 市川 亮¹ 持永崇恵¹ 本原利彦¹ 柚留木秀人¹
松野健司¹ 石井将太郎¹ 尾上公浩¹ 中田成紀¹ 杉 和洋¹
村山寿彦² 成毛有紀²

I-7 膵癌と多発脳梗塞を合併した2症例

消化器内科¹ 神経内科² 和田敏明¹ 市川 亮¹ 持永崇恵¹ 本原利彦¹ 柚留木秀人¹
松野健司¹ 石井将太郎¹ 尾上公浩¹ 中田成紀¹ 杉 和洋¹
幸崎弥之助² 田北智裕²

I-8 当院にて難治性腹水に対してトルバプタンを使用した15例についての検討

消化器内科 市川 亮 持永崇恵 本原利彦 柚留木秀人 松野健司 石井将太郎
尾上公浩 中田成紀 杉 和洋

一般演題Ⅱ 「救急部門」

10:20~11:05

Ⅱ-1 防災ヘリでの現場救急活動に関する検討

救命救急・集中治療部 櫻井聖大 江良 正 狩野亘平 山田 周 木村文彦 北田真己
原田正公 高橋 毅

Ⅱ-2 救急外来受診記録からみた自傷自殺関連症例の臨床的特

精神科¹ 救命救急集中治療部² 徳山祥音¹ 吉田庸子^{1,2} 橋本 聡^{1,2} 森枝 悟¹ 山下建昭¹
渡邊健次郎¹

Ⅱ-3 集学的治療により救命し得た感染性心内膜炎の1症例

循環器内科 渡壁 孝弘 石田俊史 永松 優 松原純一 松川将三 宮尾雄治
藤本和輝

Ⅱ-4 救急外来に意識障害にて搬入された非けいれん性てんかん重積状態症例の後方視的解析

神経内科 小阪崇幸 加藤勇樹 幸崎弥之助 田北智裕

Ⅱ-5 院内トリアージの精度向上のためのシステム改善とスタッフ教育の効果

救命救急センター 橋上卓明 甲斐 彰 池田佳奈 坂本香代 颯川俊也 原田正公

一般演題Ⅲ 「薬剤・看護・教育部門」

11:10~12:05

Ⅲ-1 循環器内科病棟での薬剤インシデント解析と今後の病棟業務の取り組み

薬剤科 中村 愛 永野真久 高田正温 幸 邦憲 平木洋一 真鍋健一

Ⅲ-2 悪性リンパ腫化学療法におけるフィルグラスチム後続品の臨床効果の検討

薬剤科¹ 血液内科² 木山聡子¹ 日高道弘² 真鍋健一¹

Ⅲ-3 TKA（人工膝関節置換術）におけるドレーン非留置とカクテル療法導入の効果

5階南病棟¹ 整形外科² 大村みゆき¹ 河田佳奈¹ 佐々木圭一¹ 田之上美紀¹ 福元哲也²

Ⅲ-4 医療機器関連圧迫創傷の発生状況と課題

皮膚・排泄ケア認定看護師¹ 皮膚科² 香月 麗¹ 牧野公治²

Ⅲ-5 看護管理者の看護倫理に関する認識の実態～中間管理者のアンケート調査結果から～

看護師長研究会 沖田典子 高尾珠江 福本佐百合 颯川俊也 田崎ゆみ

Ⅲ-6 A看護学校における学生の看護実践能力習得の現状と課題

附属看護学校 草原麻紀 石原史絵 荒川直子

昼食 (12:05~13:05)

一般演題Ⅳ「外科系部門」

13:05~14:10

Ⅳ-1 胸水細胞診で診断し得た肺リンパ脈管筋腫症の一例

病理診断科¹ 臨床検査科² 成毛有紀¹ 村山寿彦¹ 船瀬将一² 石原幸治² 中島一樹²
川上裕之²

Ⅳ-2 自転車ハンドル外傷の4例

外科¹ 心臓血管外科² 川上裕史¹ 松本克孝¹ 岡本 実² 問端 輔¹ 糸山明莉¹
藤木義敬¹ 澤山 浩¹ 森田圭介¹ 水元孝郎¹ 久保田竜生¹
宮成信友¹ 芳賀克夫¹ 片瀨 茂¹

Ⅳ-3 結腸間膜内ヘルニアの1例

外科 江頭 興一 問端 輔 糸山明莉 藤木義敬 澤山 浩 森田圭介
松本克孝 水元孝郎 久保田竜生 宮成信友 芳賀克夫 片瀨 茂

Ⅳ-4 感染人工血管摘出術中に肺血栓塞栓症を合併した一例

麻酔科 西澤秀和 小松修治 磯部直史 樋口拓志 宮崎直樹 古庄千代
瀧 賢一郎

Ⅳ-5 前立腺癌に対する密封小線源療法 of 初期経験

泌尿器科¹ 放射線科² 堤 茂高¹ 山中広太郎¹ 山本結美¹ 矢野大輔¹ 前田喜寛¹
陣内良映¹ 土岐直隆¹ 菊川浩明¹ 田上昇太² 岩下孝弥²
富高悦司² 吉松俊治²

Ⅳ-6 卵巣転移をきたした原発性虫垂癌の2例

産婦人科¹ 病理診断科² 山本 直¹ 西村 弘¹ 高木みか¹ 山本文子¹ 永井隆司¹
三森寛幸¹ 成毛有紀² 村山寿彦²

Ⅳ-7 腸間膜動脈仮性動脈瘤に対してコイル塞栓術を施行した2例

放射線科¹ 循環器内科² 救急科³ 福島巨希¹ 山田敏寛¹ 田上昇太¹ 岩下孝弥¹ 根岸孝典¹
富高悦司¹ 伊藤加奈子¹ 浅尾千秋¹ 吉松俊治¹ 石田俊史²
狩野巨平³ 江良 正³

一般演題Ⅴ「メディカルスタッフ・事務部門」

14:15~15:30

V-1 当院における作業療法の現状-2013年度と2014年度の実施状況の比較から

リハビリテーション科 北原雅代 陣内良伊 高野雅弘 渡邊靖晃 友清隆之 榮 彩人
吉永龍史 西山真倫子 鶴田紫央里

V-2 当院における過去5年間の血液培養解析報告

臨床検査科 川上洋子 林 秀幸 植田佳央理 永田栄二 武本重毅 高木一孝

V-3 Autopsy imaging(Ai)におけるシステム構築

画像診断センター 診療放射線科 尾崎慎哉 北口貴教 山本静成

V-4 難治性胸腹水患者の治療に対する改良型腹水濃縮システム、KM-CARTの応用について

血液浄化センター 臨床工学技士 川内 直 竹本勇介 佐藤朋哉 田代博崇 新木信裕 北川 哉
森永良和 松下尚暉

V-5 患者様、そして職員にも優しい病院の実現に向けて

事務部 清水就人 内田正秋 柳田和憲 織田政継 中川浩介 富田啓治郎
森 貴史 吉田健司 馬場正博 大里 郁 大森常永 井上弘毅
渡邊和則 金内芳郎 甲斐裕樹

V-6 救急搬送された家族機能不全の身元不明患者への支援

地域医療連携室 三浦由江 西迫はづき 木下良子 荒木陽子 新開貴夫 立花律子
田中富美子

V-7 熊本医療センターにおける心理職の取り組みと役割

精神科 心理療法士 濱野 学

V-8 医師事務作業補助業務の現状と今後

統括診療部 園田美樹 片渕 茂 宮本雅子 山下直美 淵上幸恵 林田しのぶ
原 向見 竹下喜代美 古庄郁代

一般演題VI 「その他の診療科部門」

15:35~16:40

VI-1 日本紅斑熱の2例

皮膚科 藤田良佑 江頭 翔 久保陽介 牧野公治

VI-2 眼科領域手術における $\alpha 2$ 作動性鎮静剤の使用経験

眼科¹ 麻酔科² 筒井順一郎¹ 宮崎洋子¹ 榮木大輔¹ 近藤晶子¹ 瀧 賢一郎²

VI-3 脳出血増大の因子分析

脳神経外科 甲斐恵太郎 大塚忠弘 吉里公夫

VI-4 ピオクタニン液による術中ガングリオン染色の経験

形成外科 加来知恵美 東野哲志 大島秀男 中西いづみ

VI-5 心臓血管外科における周術期口腔機能管理の介入効果と歯科治療内容について

歯科口腔外科 古屋敷優 折田 剛 古園大気 上田大介 森久美子 河野通直
片岡奈々美 中島 健

VI-6 Helicobacter pylori感染症による鉄欠乏性貧血の5例

小児科 今村友彦 緒方美佳 水上智之 森永信吾 高木一孝

VI-7 Budin変法による術後大腿骨前捻角のXp計測

整形外科 杉本一樹 橋本伸朗 福元哲也 前田 智 中馬東彦 松下任彦
平井泰博

総評・閉会の辞

16:40~16:50

国立病院総合医学会が行なわれました

去る11月14日～15日に全国の国立病院機構143病院と国立ハンセン療養所・国立高度専門医療研究センターの職員が集う国立病院総合医学会が横浜市で開催されました。本学会は、国立医療のあるべき姿を議論するとともに、全国の職員が交流することが目的です。特別講演では、スタンフォード大学中内啓光教授の「iPS細胞技術が切り拓く新しい医療」が行われました。ブタの体にヒトの肝臓を作成するキメラ動物の研究など、iPS細胞の新たな可能性を示していただきました。その他、診療・教育・研修・臨床研究などの内容で35本のシンポジウムが行われ、現在の医療が抱える問題点が多方面から議論されました。さらに、口演またはポスター発表で数多い興味ある発表がなされました。当院からも53題の発表が行われ、大いに存在感を示すことができたと思います。この中で、右記の9名の方がベスト発表賞を受賞しています。

(臨床研究部長 芳賀克夫)

【ベスト口演賞】

坂本みなみ 看護部（6西病棟）	成人患者と同室となった小児患者家族が感じるストレス—入院中のインタビュー調査から—
松本将太 看護部（6北CCU）	急性心筋梗塞患者の安静療法に伴う腰痛発生の要因と出現時期の実態調査
中島昌利 外科	自転車ハンドル外傷の1例
井上彩 看護部（7西病棟）	緩和ケアにおける家族とのコミュニケーションに対する困難感の要因～急性期病院A病棟の現状分析から～

【ベストポスター賞】

西山真倫子 リハビリテーション科	摂食・嚥下チームの取り組みと今後の課題
和田敏明 消化器内科	膵癌と多発脳梗塞を合併した2症例
前田真里奈 看護部（救命救急センター）	救急外来における外傷看護の統一化に向けて
武本重毅 臨床検査科	可溶性CD30血清濃度と成人T細胞白血病の腫瘍性肺病変
大村みゆき 看護部（5南病棟）	TKA（人工膝関節置換術）におけるドレーン非留置とカクテル療法導入の効果

南カリフォルニア大学病院 ジェフリー・ヘーゲン先生の研修を終えて

11月17日から5日間、南カリフォルニア大学外科学よりヘーゲン先生をお迎えし、研修会が行われました。

私たち研修医は英語で症例報告、病棟回診のプレゼンテーションを行いました。英語での発表は難しく、大変緊張しました。自分の英語力、語彙力の弱さを実



ジェフリー・ヘーゲン先生と記念撮影

感したとともに、英語ならではの表現や、日本人が陥りがちな間違いなどを学ぶ良い機会となりました。

また、ヘーゲン先生と芳賀先生による縫合実習にも参加しました。ヘーゲン先生による腸管のモデルを用いたデモンストレーションの後、2人1組で腸管の吻合を行いました。わからない手順はヘーゲン先生が直々に指導してくださり、大変貴重な経験をしたと思います。

交流会ではヘーゲン先生ご夫妻と食事をしながら英語で様々なお話ができ、楽しい時間を過ごしました。

5日間という短い時間でしたが、たくさんの英語に触れ、様々な貴重な体験をすることができました。最後になりましたが、この場をお借りして、今回の研修にご尽力いただいた先生方に感謝を申し上げます。

(2年次研修医 谷口あゆみ)

新任職員紹介



泌尿器科医師

まえだ よしひろ
前田 喜寛

この度熊本大学医学部附属病院泌尿器科から12月1日より熊本医療センター泌尿器科へ着任致しました前

田でございます。専門領域は腎細胞癌、排尿障害になります。熊本医療センターは地域の急性期中核病院として24時間、365日断らない救急医療をモットーとしている病院でございます。開業医の先生方と密接な医療連携をはかりながらより質の高い医療を目指して頑張っていきたいと思っております。若輩者ながら先生方のお役に立てるよう精一杯努力して参りたいと思いますのでご指導・ご鞭撻の程何卒宜しくお願い申し上げます。

矢野大輔泌尿器科医師が 平成26年度西日本泌尿器科学会最優秀論文賞を受賞しました (症例報告部門)

この度、当院泌尿器科の矢野大輔君が平成26年度西日本泌尿器科学会最優秀論文賞を受賞し、先に行われた西日本泌尿器科学会総会（倉敷）で表彰されましたので紹介いたします。この賞は、昨年度西日本泌尿器科学会誌に掲載された110数篇の症例報告論文より、理事会が投票により選ぶもので、熊本県内からの最優秀賞受賞は初めてとなります。この論文は、男性不妊（無精子症）および男性ホルモンの異常高値で紹介を



表彰式の様子

頂き、精査の結果、精巣内にライディッチ細胞腫という稀な腫瘍を見出したものです。腫瘍は手術で摘出しましたが、術前後で各種性ホルモンを測定し、紹介元と協力した結果、男性ホルモンの正常化に伴い術後半年程度で精子が自然出現し、2年後には自然妊娠で挙児を得たという嬉しい結末も得ています。

（本症例に対しアドバイスを頂きましたソフィアレディースクリニック水道町院長 岩政仁先生に感謝いたします。）
（泌尿器科部長 菊川浩明）

この丸がんサロン企画

トーンチャイム Xmasコンサートを開催しました

平成26年12月11日（木）にこの丸がんサロンの企画にてクリスマスコンサートが開催されました。

この丸がんサロンは、当事者やご家族が気軽に語り合い分かち合う場であり、がん医療に関する意見交換や情報を得ることによって、当事者・ご家族自身が困難に対処していく力を養う場、また誰かの役に立つ感覚を獲得していく場です。

この丸がんサロンは、病院内で開かれるサロンですので、院内のスタッフの皆様方にご協力頂き学習会を開いたり、当事者のみなさんの語らいを特色としています。

今回は、『この丸がんサロン』を多くの方に知ってほしい、「患者さん方へ癒しの時間を提供したい」というサロン参加者の方々の声で、前半の1時間を使って演奏ボランティア美齡重（ミレージュ）様によるトーンチャイムコンサートが開かれました。

トーンチャイムはアメリカで作られたリハビリ用の楽器で優しい音色が奏でられます。美齡重様は約10年前から病院や施設などで多岐にわたって演奏活動をされており、この丸がんサロンで演奏頂くのも3度目となりました。たくさんのクリスマスソングを奏でて頂



Xmasコンサートの様子

き、観覧された患者さんからも「見に来てよかった」とのお声を頂きました。

この丸がんサロンの当事者の方々のがん腫や病期はさまざまですが、それぞれを思いやり助け合われているがんサロンです。

毎月第1金曜日13:00～15:00に研修センター 研修室1で開催されております。この丸がんサロンは他院へかかられている方も参加可能で地域に開かれた交流の場です。お気軽にのぞいてみてください。

（がん相談支援センター

医療ソーシャルワーカー 木下良子）

研修医レポート

臨床研修医

わだ としあき
和田 敏明



こんにちは、1年次研修医の和田敏明です。昨年
3月に久留米大学を卒業し、国立病院で研修を始めた
のがずっと前のことに思えるような充実した日々を過
ごしております。4月の消化器内科から始まり、麻酔
科、糖尿病・代謝内科、救命救急部、循環器内科にお
世話になりました。消化器内科は初めての科で何か1
つできることを探そうと腹部エコーに力を入れてみま
した。また、初の学会発表である国立病院総合医学会
では消化器内科で体験した症例を発表しました。麻酔
科では挿管、ルート確保などの手技的なことや麻酔下

での全身管理を学ぶことができました。いまだにルー
ト確保が苦手なのでこれからも精進していきます。代
謝内科では糖尿病のコントロールを中心に学び、珍し
い症例も体験でき症例報告しました。救命救急部では
病棟と外来で研修し、外来では患者さんの情報を短い
時間で集めて診断をつけていくまでの診断力、病棟で
は重症患者の全身管理をいかにしていくかを学びまし
た。循環器内科では急性冠症候群や心不全や不整脈で
循環が保てず救急搬送されかなり危険な状態から復帰
していく姿を見て医療のすごさを感じました。

医師になったばかりで学ぶべきことが沢山あること
を痛感する日々ですが、諸先生方、看護師の方々、コ
メディカルスタッフの皆さん、患者様に時にご迷惑を
おかけしつつも、優しく御指導いただき国立病院で研
修できることがとても嬉しく思います。

まだまだ、学ぶことが山のようにありますが、年度
も変わり、新たな気持ちで研修生活を充実したもの
にできるよう努力していきます。皆様には本年も変わら
ないご指導・ご鞭撻をいただけたら幸いです。今年も
よろしく願いいたします。

臨床研修医

まるめ あゆみ
丸目 麻友美



こんにちは、研修医1年目の丸目麻友美です。大分
大学を卒業し、熊本へ戻って参りました。4月から、
神経内科、救命救急部、循環器内科、外科とローテー
トし、現在は呼吸器内科で研修をさせていただいてい
ます。

医師になって初めての研修をさせていただいた神経
内科では、急性期脳梗塞の方を主に担当させていただきました。「昨日まで普通に話していたのに」「気づく
のが遅れた私のせいですよ？」と、患者さんやその
ご家族に突然ふりかかる不幸を受け止めることに、す
ごく時間がかかりました。毎日涙を流す患者さんの麻
痺が少しでもよくなるものかと、リハビリにもつ
いていったのですが、なかなか思うようにはいかず、
話を傾聴することしかできない無力さを感じました。
また、初めて自分の担当患者さんが亡くなるというこ
とも経験しました。この歳まで生きて、ご家族に見守
られて大往生だよという先生の言葉に励まされながら、

めまぐるしく2か月の研修が過ぎていきました。

次にローテートした救命救急部では少しか病院に
も慣れて、ICU管理が楽しく感じました。少しでもと
輸液をいじることで、自己満足かもしれませんが、最
後までなにかをしてあげられている気持ちになれまし
た。自分で勉強するとすごく難しく感じましたが、オー
ベンの背中に追いつきたいと強く思いました。

働き始めてからの変化は数多くあった気がしますが、
ひとつ、私は不思議な夢を何度もみるようになりました。
高校入試前にはじまり、大学入試前、国試前、そ
して引っ越しの日と、今までのステージごとに、な
にかおわれているような夢です。起きたときはいつも
よくわからず、今私はどの段階まで来たっけ、大学は
うかったよね？いや国試もたしか終わったよね？とい
つとき考えて、もう医者になったのかと再確認します。
慌ただしい生活の中で、自分の夢が叶ったことを再確
認する朝、支え続けてくれた家族への感謝の気持ちが
溢れます。自分の理想の医師像を思い出し、無力なり
にも、もっともっと頑張ろうと改めて思うようになり
ました。オーベンをはじめスタッフの皆様には迷惑を
かけてばかりですが、真摯さを忘れずに精一杯精進し
ようと思います。今後ともよろしく願いいたします。

研修のご案内

第160回 三木会（無料）

（糖尿病、高脂血症、高血圧を語る会）
 [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]
 [日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定]

日時▶平成27年1月15日(木)19:00~20:45

場所▶国立病院機構熊本医療センター研修室2

1. 「インスリンポールが糖尿病ケトアシドーシスの原因と考えられた1型糖尿病の一例」
 国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科
 坂本和香奈、江頭興一、山本紗友梨、堀尾香織、橋本章子、小野恵子、高橋毅、豊永哲至
2. 「異常ヘモグロビン症と診断された正常耐糖能の一例」
 国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科
 小野恵子、堀尾香織、坂本和香奈、橋本章子、高橋毅、豊永哲至

なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、お持ちいただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科部長 豊永 哲至 TEL 096-353-6501 (代表) 内線5796

第192回 月曜会（無料）

（内科症例検討会）
 [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]

日時▶平成27年1月19日(月)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

1. 内科基礎講座 国立病院機構熊本医療センター神経内科医長 田北智裕
2. 症例検討 「リウマチ治療メソトレキセートによる血球減少について」
 国立病院機構熊本医療センター血液内科 榎 裕子
3. ミニレクチャー「腎臓の最近のトピックス」
 国立病院機構熊本医療センター腎臓内科医長 梶原健吾

日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線、心電図、その他がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター統括診療部長 清川 哲志 TEL: 096-353-6501 (代表) FAX: 096-325-2519

第117回 総合症例検討会(CPC)

[日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]

日時▶平成27年1月28日(水)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

テーマ: 『胆管癌治療中の急激な腹痛』 (70歳代 男性)

臨床担当) 国立病院機構熊本医療センター消化器内科医長 中田成紀

病理担当) 国立病院機構熊本医療センター臨床研究部病理研究室長 村山寿彦

「C型慢性肝炎あり平成24年に肝内胆管癌にて切除術施行した。再発有り化学療法を行っていた。

今回は腹痛出現し入院となった。」

* 臨床経過の詳細な検討と鑑別診断を行います。最後に病理よりマクロ、ミクロの所見と剖検診断が解説されます。通常のレクチャー（解説）の前に、馴染みの少ない疾患、病態は、その分野に関するミニレクチャーを予定しております。基本的知識を学んだ後で活発なディスカッションをお願い致します。どなたもお気軽にご参加下さい。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501 (代表) 内線2630 096-353-3515 (直通)

第48回 症状・疾患別シリーズ（会員制）

[日本医師会生涯教育講座2.5単位認定]

日時▶平成27年1月31日(土)15:00~17:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

座長: 天草郡市医師会立病院 総院長 植村正三郎先生

演題: 「脳卒中治療」

1. 出血性脳卒中に対する手術適応について
 国立病院機構熊本医療センター脳神経外科部長 大塚忠弘
2. 虚血性脳卒中に対する急性期薬物療法について
 国立病院機構熊本医療センター神経内科医長 田北智裕
3. 脳卒中患者に対する摂食・嚥下評価と訓練について
 国立病院機構熊本医療センター歯科口腔外科部長 中島 健
4. 脳卒中のリハビリテーションについて
 国立病院機構長崎医療センター理学療法士長 坂本浩樹 先生

この講座は有料で、年間10回を1シリーズ（年会費10,000円）として会費制で運営しています。但し、1回だけの参加を希望される場合は1回会費2,000円で参加いただけます。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局

TEL 096-353-6501 (代表) 内線2630 096-353-3515 (直通) FAX 096-352-5025 (直通)

2015年 研修日程表 1月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

1月	研修センターホール	研 修 室
1日(木)		
2日(金)		
3日(土)		
4日(日)		
5日(月)		
6日(火)		
7日(水)		
8日(木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 「ERでの皮膚疾患~5症例に学ぶ基本的対応~」 国立病院機構熊本医療センター皮膚科医長 牧野公治	
9日(金)		
10日(土)		16:00~18:00 熊本地区核医学技術懇話会(研2)
11日(日)		
12日(月)		
13日(火)		
14日(水)	18:00~19:30 第90回 国立病院機構熊本医療センター クリティカルバス研究会(公開)	
15日(木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 「緩和医療」 国立病院機構熊本医療センター血液内科医長 榮 達智 14:00~15:00 第22回 市民公開講座 「感染性腸炎(ノロウイルス)について」 国立病院機構熊本医療センター小児科部長(予防医学) 高木一孝	19:00~20:45 第160回 三木会(研2) (糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会) [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定] [日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定]
16日(金)		15:30~16:45 肝臓病教室(研2) 「肝がんについて」
17日(土)	第20回 国立病院機構熊本医療センター医学会	
18日(日)		
19日(月)	19:00~20:30 第192回 月曜会(内科症例検討会) [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]	
20日(火)	19:30~20:30 第38回 熊本摂食・嚥下リハビリテーション研究会 「嚥下食 ~施設間連携のために~」 1. 急性期の立場から 済生会熊本病院摂食・嚥下障害看護認定看護師 山川美樹 2. 回復期の立場から 熊本リハビリテーション病院栄養士 高山留美 3. 維持期・緩和ケアの立場から 御幸病院管理栄養士 田邊史子 4. 老健の立場から 介護老人保健施設サンライズヒル栄養科科長 永戸一羽	
21日(水)	平成26年度 院内感染研修会(国立病院機構)(第1日目)	
22日(木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 「AKIの治療」 国立病院機構熊本医療センター腎臓内科部長 富田正郎 平成26年度 院内感染研修会(国立病院機構)(第2日目) 18:30~20:00 日本臨床細胞学会熊本県支部研修会 <細胞診月例会・症例検討会>	
23日(金)	平成26年度 院内感染研修会(国立病院機構)(第3日目)	
24日(土)		
25日(日)		
26日(月)		
27日(火)	18:30~20:30 血液研究班月例会	19:00~21:00 小児科火曜会(研1)
28日(水)	19:00~20:30 第117回 総合症例検討会(CPC) [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定] 「胆管癌治療中の急激な腹痛」	
29日(木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 「脳梗塞の治療」 国立病院機構熊本医療センター神経内科医長 幸崎弥之助	
30日(金)		
31日(土)	15:00~17:30 第48回 症状・疾患別シリーズ 「脳卒中治療」 [日本医師会生涯教育講座2.5単位認定] 座長 天草郡市医師会立病院 総院長 植村正三郎 1. 出血性脳卒中に対する手術適応について 国立病院機構熊本医療センター脳神経外科部長 大塚忠弘 2. 虚血性脳卒中に対する急性期薬物療法について 国立病院機構熊本医療センター神経内科医長 田北智裕 3. 脳卒中患者に対する摂食・嚥下評価と訓練について 国立病院機構熊本医療センター歯科口腔外科部長 中島 健 4. 脳卒中のリハビリテーションについて 国立病院機構長崎医療センター理学療法士長 坂本浩樹	

研1~3 2階研修室1~3室

※二の丸モーニングセミナーにつきまして、詳細はホームページ(<http://www.nho-kumamoto.jp/index.html>)をご参照ください。

問い合わせ先 〒860-0008 熊本市中央区二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター2階 地域医療研修センター TEL 096-353-6501(代)内線2630 096-353-3515(直通)